

第1号

2012年1月15日 発行

(平成24年)

せいしょうのかい なかちょうさぎょうしょ かいほう

青松の会 中町作業所 会報



「青松の会中町作業所会報」の発刊にあたって

理事長 金田秀夫

新年を迎え、皆さん、本年もお元気にお過ごし下さるようお祈りいたします。

昨年は東日本大震災、原発事故など、未曾有の災害にみまわれた大変な年でした。災害にあわれた皆さんに心からお見舞い申し上げます。

ところで、青松の会では、日頃の活動を関係の皆様にご報告し、お知り頂きたいということで、このたび「青松の会中町作業所会報」を発刊することといたしました。

青松の会では、現在、知的にハンデのある人のための中町作業所を運営しておりますが、当作業所はこれまでミチル会作業所として、ミチル会のご支援をいただき運営されてきました。

一方、障害者自立支援法の施行に伴い、従来の福祉施設は、平成23年度末までに新体系の福祉施設に移行しなければならないことになりましたので、これまで通所授産の作業所として運営してきましたミチル会作業所も、新体系の作業所に移行する必要性がありました。

従いまして、まず、一昨年にミチル会作業所を運営する法人として特定非営利活動法人青松の会を設立し、ミチル会作業所の名称を中町作業所と変更いたしました。

続いて、昨年には都から認可をいただいて、障害者就労継続支援B型の作業所といたしました。

このように形態は変わりましたが、中町作業所では、旧ミチル会作業所の業務をそのまま引き継ぎましたので、利用者の皆さんに、従来通り企業からの受注製品や自主製品の生産などを行う日中活動の場を提供し、これらの作業を通じてそれぞれが地域社会の中で自立し、又は、就労を目指した社会参加ができるよう支援する事業を継続して行っているところです。

このような中で、時代の移り変わりとともに、福祉関係の制度も変遷していく動きではございますが、今後とも利用者の皆さんが、その人なりに充実した日中活動を継続し地域社会の中で自立していけるよう、役職員一同力を尽くしていきたいと存じております。

関係の皆様には、変わらぬご指導、ご支援をいただきますようお願いし、「青松の会中町作業所会報」の発刊にあたっての挨拶といたします。

中町作業所の近況について

施設長 熊谷重信

新年あけましておめでとうございます。

作業所の各種活動にご理解をいただきありがとうございます。今年も皆様のおかげで無事新しい年を迎えることができました。

平成22年度にNPO法人格を取得し、名称も「ミチル会作業所」から「特定非営利活動法人青松の会」に改め、続いて23年度には新法に移行し事業所として新たな歩みを始めることができました。

昨年3月、新法移行直前には東日本大震災が起こり、ちょうど行事で外出中だった作業所一同も千葉からの帰宅に一昼夜かかりました。翌日10時半には全員無事帰宅することができました。利用者の車中での行動も特に騒ぐこともなく、秩序ある行動がとれていたことに驚きとともに利用者の成長を強く感じました。

新法に移行した後も作業所の雰囲気が一変するようなこともなく、利用者も混乱なく通常の生活を続けることができています。作業所を取り巻く情勢は大きく変わりつつある中、契約が終了した企業もありましたが、入れ替わるように新規に契約を結ぶことができた企業があり、所内では日々順調に作業をこなしています。屋外作業も区からの公園清掃も引き続き2か所委託していただき、真夏の暑さの中も大量の落葉にも毎日のように誰かしらが清掃に赴いています。

作業以外の場面では、目黒本町福祉工房内に「さんまるしえ」が6月よりオープンし当作業所の自主生産品も陳列・販売していただくことで広く一般のお客様にも知って頂けるようになりました。

作業所行事も減ることなく、毎月なんらかの行事が実施できています。特に5月のバスハイク、10月の2泊3日の宿泊はみんなとても楽しみにされています。今年は伊勢・鳥羽・志摩をゆっくり周っていろいろな経験をしてきました。作業所初の往復新幹線乗車などの経験はその最たるものだったと思います。

お伊勢参りにおはらい横丁の散策。鳥羽水



伊勢神宮参拝・内宮境内にて



鳥羽ビューホテル「花真珠」での夕食

族館の見学、スペイン村の自由行動、安土桃山文化村での忍者との記念撮影など盛りだくさんの企画で日頃の生活とは違う体験ができたと思っています。

こうしたひとつひとつのことが法人を支えて下さった皆様方のお力添えによるものだと感謝しております。

今後とも変わらないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

青松の会中町作業所の紹介

設置目的

当法人は障害のある人々に対して、企業からの受注や自主製品の生産作業を行う日中活動の場を提供する。

そしてこれらの作業を通じて地域社会の中での自立、又は就労を目指した社会参加が出来るよう支援する事業を行う事により、障害福祉の増進に寄与する事を目的とする

設立年月日

平成22年1月29日

沿革

- S 45.04.01 中央区のミヤコ商事にあった知的障害者作業所をミチル会作業所として受け継ぐ。
- S 54.04.01 ミヤコ商事の都合で建物を返還し目黒区中目黒に移転する。
- H 15.11.30 大圓寺のご好意により現在地に移転する。
- H 22.01.29 東京都より特定非営利活動法人として認可されミチル会作業所を改め「NPO法人青松の会」中町作業所として設立する。

利用対象者及び定員

18歳以上の知的障害者で一人通勤が出来る方 20名

利用時間

月曜日～金曜日の午前9時から午後4時

年間行事

4月	花見	5月	バスハイク	6月	都スポーツ大会
7月	誕生会（上半期）	8月	お茶会・夏休み	9月	スポーツの集い
10月	宿泊訓練	11月	運動会（招待）	12月	忘年会
1月	誕生会（下半期）	2月	お茶会	3月	親睦会

作業内容

- 官 公 需 区内公園清掃2箇所・四十雀巣箱作り
- 受注作業 各種プラスチックスプーンの袋入れ
- 鑑賞魚用エアポンプの部品・箱組み立て
- 菓子袋の折と紐通し
- タウン誌の広告折り込み



室内作業



公園清掃

自主製品

ステンシルによる布巾、ハンカチの製作
木工加工（キーホルダー、リース・クリスマスツリー）
ビーズワーク（ストラップ、ネックレス等）
季節の置物作り



季節の置物（お正月）



ステンシル布巾、ハンカチ



ビーズ製品



季節の置物（お正月）

・・・・・・・・ 青松の会中町作業所 職員 ・・・・・・・・

〈施設長〉熊谷重信 〈主任〉大草勝子 〈副主任〉中村隆幸 〈事務担当〉砂田亜紀
〈支援員〉阿部多美枝・小川桂子・藤井光枝・前田友江・黒川広

編集後記

念願の会報を発行することができました。
この件に関しましては、理事・職員全くの素人で、
鳩首会談ならぬ窮首会議の連続でしたが、少しでも
私共の意が皆様に伝わっていただければ幸いです。
次号はもっと充実したものを目指して頑張りたいと
思います。ご意見ご要望をお待ちしています。 (B)

特定非営利活動法人青松の会

〒153-0065 東京都目黒区中町1-25-22

TEL & FAX : 03-3792-4465

E-mail : chiruchiru-michiru@s3.dion.ne.jp

発行人 熊谷重信

賛助会員を募集しております。一口（1,000円）以上、どうぞご協力のほどお願い申し上げます。